

授業科目名： 日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大蔵 純子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史、外国史		
授業の到達目標及びテーマ 日本史の推移を年代順に確認し、古代、中世、近世、近代の特徴を説明できるようにする。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、それぞれの時代の諸課題を発見し追究し、解決策を考える。			
授業の概要 古代から近現代にいたるまで、大まかに区分し、それぞれの時代の特徴を明らかにすることにより、日本史の全体像を理解する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回 授業概要の説明、旧石器時代と縄文時代</p> <p>第2回 弥生時代と邪馬台国</p> <p>第3回 聖徳太子の政治改革</p> <p>第4回 律令国家の成立と平城京</p> <p>第5回 奈良時代、天平文化</p> <p>第6回 平安京、摂関政治、国風文化</p> <p>第7回 鎌倉幕府の成立と執権政治</p> <p>第8回 鎌倉時代の文化と宗教</p> <p>第9回 南北知用の動乱と室町幕府</p> <p>第10回 応仁の乱と戦国大名</p> <p>第11回 室町文化</p> <p>第12回 江戸幕府の成立</p> <p>第13回 鎖国、産業の発達、享保の改革、天保の改革</p> <p>第14回 戒告と不平等条約、開国</p> <p>第15回 2度の世界大戦、世界恐慌、戦後の日本、冷戦と日本の発展</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成30年告示）解説「社会編」』 文部科学省『小学校学習指導要領』			
学生に対する評価 定期試験(60%)、レポート(20%)、模擬授業やグループワーク(20%)			

授業科目名： 外国史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：横山 悦生 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史、外国史		
授業の到達目標及びテーマ 北欧の国々がどのように発達してきたのか、その自然環境的要因、地理的要因などについての理解を得る。次に、ヨーロッパ全体、アジア、南北アメリカ、アフリカなどの歴史を概観する。			
授業の概要 本講義では、北欧の先史時代からヴァイキング時代、カルマル連合の時代、近代への序曲。ナショナリズムの時代を経て現代に至るまでの北欧の歴史を取り上げる。ここで取り上げる北欧とは、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、アイスランドを主に指すが、場合によっては、バルト三国（エストニア、ラトビア、リトアニア）やグリーンランドや北極圏についても触れることがある。これらの地域の歴史についての基本的な理解を得ることを目標としている。 次に、ヨーロッパ全体、アジア、南北アメリカ、アフリカなどの歴史をたどり、どのように世界の歴史が推移したのかを理解する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、授業概要を説明する。 第2回 北欧の歴史を取り上げ、経済や文化の発展を理解する。 第3回 人類史のはじまりを理解する。 第4回 古代文明と地域社会を理解する。 第5回 ユーラシア大陸の気候と社会の変化を考える。 第6回 大航海時代の世界の勢力図を理解する。 第7回 ヨーロッパと中国の関係をたどる。 第8回 南北アメリカの歴史を理解する。 第9回 欧米諸国における近代化を考える。 第10回 第1次世界大戦と民族独立の動きを理解する。 第11回 第2次世界大戦の始まりと終わりを分析する。 第12回 冷戦と冷戦後の世界を理解する。 第13回 アジアとアフリカの発展をたどる。 第14回 グローバル化の影響を理解する。 第15回 持続可能な世界の在り方考える。 定期試験			
テキスト 百瀬宏、熊野聡、村井誠人編『北欧史（上）』山川出版社、2022年、1300円 百瀬宏、熊野聡、村井誠人編『北欧史（下）』山川出版社、2022年、1300円			
参考書・参考資料等 なし。			
学生に対する評価 第一回目のレポート50%、第二回目のレポート50%で評価する。			

授業科目名： 地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：傍嶋 則之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ ＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。日本地理と世界地理を取り扱い、各地域や各都市の抱える諸問題を確認し、探究的な学習を行う。			
授業の概要 地理学の歴史の流れに沿いつつ、どの様な方法でアプローチするのか、さまざまなく地理学的なものの見方・考え方について理解する。日本や世界の地図はもちろんのこと、写真・絵図等多種多様な情報を駆使して、地域を読み解く地理学の力を習得する。 この授業では、授業に並行して日本地理ノートを使い、地域・空間・分布・立地・知覚・環境などをキーワードにして、各都市の見方・考え方を解説・演習する。			
授業計画 第1回 尾張旭市のハザードマップ検証：授業の進め方、参考書など 第2回 日本と世界の地域の成り立ちを繙く、ユーラシア大陸、アフリカ大陸、アメリカ大陸、オーストラリア大陸、南極大陸の5大陸の成り立ち 第3回 日本と世界の農業の効率性と地域性 第4回 日本と世界の人と地域を結ぶランドスケープ 第5回 日本と世界の経済活動のグローバル化とローカル化、5大陸の経済活動 第6回 キャリア形成と労働の空間 第7回 日本と世界企業の立地戦略と消費生活、5大陸の世界企業 第8回 日本と世界の地域文化への地理学の視点、 第9回 日本と世界の都市を再生する人々 第10回 日本と世界の危険に対する空間的实践 第11回 日本地図と世界地図から読み解く歴史、5大陸の地図と歴史 第12回 景観復原とその応用 第13回 政策論としての日本と世界の地理学の可能性 第14回 日本と世界の地理空間情報と未来の社会、5大陸の発展 第15回 日本と世界の地理教育に求められるもの：防災・減災、ハザードマップの課題 定期試験			
テキスト 竹中克行編『人文地理学のパースペクティブ』ミネルヴァ書房、2022年			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成30年告示）解説「社会編」』 藤岡謙二郎『人文地理学』大明堂発行、1998年 末男至行『人文地理』大明堂発行、1999年 浮田典良『地理学入門』原書房、2010年 竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015年 竹中克行ほか編『人文地理学』ミネルヴァ書房、2010年 杉浦章介ほか『人文地理学：その主題と課題』慶應義塾大学出版会、2005年			
学生に対する評価 小レポート（40%）、中間テスト・期末テスト（60%）で評価する。			

授業科目名： 法学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古澤 健一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人間が社会生活をする上で、必要不可欠な法律知識を身に付け、日々の生活に活かせる法的思考力を養う。法律知識や自身で考えたことを自分の言葉で表現できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>法を学ぶということは、とかく難しい印象を持ってしまふかもしれないが、具体的な例を挙げながら、イメージを持つことで、法について身近に感じてもらい、社会生活をする上での、基礎的な法律知識を身に付け、日々の生活に活かせる法的思考力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：法へのアプローチ 第2回：どのような法があるか 第3回：法の機能 第4回：日本の法制度と法文化 第5回：法と強制 第6回：権利と人権 第7回：法と道徳 第8回：法と正義 第9回：裁判制度 第10回：裁判の機能 第11回：裁判過程と法の適用 第12回：法の解釈 第13回：法的思考と法学 第14回：日本の法律家、国民の司法参加 第15回：現代の日本の法の考え方、法の支配の実現のために 定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>田中成明「法学入門第3版」（有斐閣）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>有斐閣『ポケット六法』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回のミニレポート20%、定期試験80%で評価する。</p>			

授業科目名： 政治学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：片原 栄一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業の到達目標及びテーマ 現代の国際政治の基本的構造を理解し、国際関係・安全保障に関する諸問題を多面的に分析する能力を体得し、それを国際社会の現場で活かせることができるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 本講義では、政治とは何か、権力とは何か、戦争と平和とは何かについて、国際的な観点から、歴史的に考察する。第2次大戦後から今日までの国際政治における諸問題を、特にインド太平洋地域の安全保障をめぐる具体的事例の分析を通して、総合的・体系的に理解することを目標とする。			
授業計画 第1回：政治とは何か 政治学の理論と概念 第2回：国際政治学の理論と概念：リアリズムとリベラリズム 第3回：アジア太平洋戦争：経緯と評価 第4回：冷戦の勃発、朝鮮戦争 第5回：戦後日本の対外・安全保障政策 第6回：ベトナム戦争 第7回：アメリカの世界戦略と対アジア政策：米中関係を中心に 第8回：日米同盟（意義、問題点、将来展望） 第9回：米ロの世界戦略とウクライナ戦争（歴史的経緯と諸問題） 第10回：中国の政治外交・安全保障政策 第11回：朝鮮半島情勢と安全保障（北朝鮮の核ミサイル問題と日韓関係） 第12回：海洋の安全保障/イスラム世界と中東情勢 第13回：日本とオーストラリア/日本とインド 第14回：国連PKO活動/人権問題/国際テロ問題/サイバー安全保障 第15回：移民・難民問題と日本の将来 定期試験			
テキスト 特に使用しない。			
参考書・参考資料等 荻部直、宇野重規、中本義彦 編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011年） 五百旗頭真 編『戦後日本外交史』（有斐閣、2006年） 中西寛、石田淳、田所昌幸 編『国際政治学』（有斐閣、2013年） 細谷千博 著『日本外交の軌跡』（日本放送協会、1993年） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回のレポート30%、期末テスト70%で評価する。			

授業科目名： 経済政策論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：由川 稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業の到達目標及びテーマ 実際に行われている経済政策について、経済理論を基に理解し、政策を客観的に評価できる力を身に付ける。また、その経済政策の歴史的背景や思想について、説明できる力を身に付ける。			
授業の概要 経済政策論は、経済に関して政府が行う政策の総称と捉えられ、金融政策、財政政策、貿易政策などが挙げられる。マクロ経済の基本的な枠組みをベースに経済政策の基礎理論を説明する。また、こうした政策は、経済環境、経済制度により政策目的、政策の効果が変化する点も説明する。経済現象の背景にある経済法則を理解することで、社会・経済・政治を見る目を養うことが可能になります。社会人として働く前の貴重な時期に、経営・経済・社会・政治を理解するのに必要なことを学びます。			
授業計画 第1回：経済政策の意義と概念 第2回：経済政策の基礎と歴史 第3回：アジアの経済成長 第4回：GDPと経済 第5回：金融政策 第6回：貿易政策 第7回：環境政策 第8回：産業政策 第9回：税制 第10回：雇用・労働政策 第11回：社会保障 第12回：マクロ経済政策 第13回：財政政策 第14回：その他の経済政策 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特に使用しない。			
参考書・参考資料等 『現代経済社会の諸問題』学文社 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回のレポート30%、期末テスト70%で評価する。			

授業科目名： SDGs論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢野 昌彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業の到達目標及びテーマ 国際環境政策、SDGsについて、他の人に説明できるようになることを目的とする。			
授業の概要 地球環境問題及び国際的な社会課題の解決に向けての政策や制度の最新の概要を知り、どのような国連、国、自治体、企業がどのように問題を解決するのかを考え、自ら情報収集する習慣をつける。			
授業計画 第1回：地球環境問題と国際政策総論 第2回：SDGsの経緯と概要 第3回：①貧困撲滅、②飢餓撲滅と持続可能な農業 第4回：③健康的な生活と福祉の増進、④質の高い教育 第5回：⑤ジェンダー平等、⑥持続可能な水へのアクセス 第6回：⑦持続可能なエネルギー 第7回：⑧持続可能な経済成長及びディーセントワーク 第8回：⑨レジリエントなインフラ構築及びイノベーション 第9回：⑩格差是正、⑪持続可能な都市 第10回：⑫持続可能な消費と生産、ライフサイクル志向 第11回：⑬気候変動対策 第12回：⑭持続可能な海洋及び海洋資源の保全 第13回：⑮持続可能な生態系、森林資源の保全 第14回：⑯国際平和と公正、⑰パートナーシップ及び事業者連携 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 『共創の強化書』中央経済社（2023年）			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回のレポート40%、期末テスト60%で評価する。			

授業科目名： 社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森下 純弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>社会学というものを理解し、社会問題は身近にありふれているものだと理解する。さらに社会の仕組みを理解することで、社会学を自分なりに捉え、自分には何ができるのかということを考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会学の基礎理論を学びつつ、前近代から現代までの社会の成り立ちを理解する</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会とは何か（ガイダンス） 第2回：多様な「社会学」 第3回：社会を調査するという事 第4回：社会学の歴史 第5回：ジェンダーと社会 第6回：家族と社会 高齢・障害と介助 第7回：スポーツと社会-1 多様な性について 第8回：スポーツと社会-2 パラスポーツについて 第9回：資本主義と労働社会 第10回：地域の社会を創る 第11回：ケアの倫理 第12回：多文化共生社会、グローバリゼーション 第13回：社会階層と社会関係資本 第14回：社会問題と考察するという事 第15回：まとめ 定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』角川文庫</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>掲示板等の意見交換への参加度10%、小レポート10%×3回、試験60%で評価する。</p>			

授業科目名： 環境管理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢野 昌彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ 環境管理について知り、他の人に説明出来る様になることを目的とする。			
授業の概要 環境問題について、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会、ワンヘルスの構築に向けての現状と課題を理解する。			
授業計画 第1回：環境白書の概要と環境マネジメントシステム 第2回：環境白書とSDGs 第3回：SDGs 経営と環境・経済・社会の諸課題の同時解決 第4回：地球環境の保全(基礎編) 第5回：生物多様性の保全及び持続可能な利用(基礎編) 第6回：循環型社会の形成(基礎編) 第7回：大気環境、水環境、土壌環境等の保全(基礎編) 第8回：化学物質の環境リスクの評価・管理(基礎編) 第9回：各種施策の基盤、各主体の参加及び国際協力に係る施策(基礎編) 第10回：地球環境の保全(応用編) 第11回：生物多様性の保全及び持続可能な利用(応用編) 第12回：循環型社会の形成(応用編) 第13回：13. 大気環境、水環境、土壌環境等の保全(応用編) 第14回：化学物質の環境リスクの評価・管理(応用編) 第15回：環境白書とPDCAのまとめ 定期試験			
テキスト 令和5年環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回のミニレポート40%、定期試験及びレポート60%で評価する。			

授業科目名： 地域産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松林 康博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した産業の実際の様子を把握できている。 ・産業を活用した地域活性化の取り組みについての知識を習得できている。 ・地域と産業の関係を考え、地域経済が抱えている課題を発見することができる。 			
授業の概要 産業構造変化の中で地域と地域の産業・企業との関係は、日本経済の活性化という点から、そのあり方が問われている。 この講義では、私たちの生活している身近な地域を取り上げ、地域社会と企業活動の関係や地域資源を活用した産業の実際の様子について考える。また、現在地域経済が抱えている課題について理解を深める。			
授業計画 第1回：産業とはなにかⅠ 社会的分業＝経済学の基本問題 第2回：産業とはなにかⅡ 産業分類と職業分類の解説 第3回：地域とはなにか 地域の階層構造とグローバル化時代の地域 第4回：産業構造の変化 クラーク、ホフマン法則と戦後日本と東海地域の推移 第5回：地域産業の担い手 第一次産業の特質と中小企業の役割 第6回：東海地域の産業構造の特徴 就業構造と生産額 第7回：地域内の経済循環 経済波及効果と産業連関表 第8回：高度経済成長と地域産業Ⅰ 重化学工業化と二重構造、下請け・企業城下町 第9回：高度経済成長と地域産業Ⅱ 地域間ヒエラルヒーと地場産業の地域 第10回：地域産業論の展開Ⅰ ポストフォーディズムと内発的発展論 第11回：地域産業論の展開Ⅱ 知識経済の時代とイノベーション 第12回：生活文化に根ざした産業発展 観光産業と「食」「住」、「地域資源」 第13回：人的資源と労働・教育・福祉 21世紀における地域産業発展の基本問題 第14回：地域産業発展における民主主義と協同 地域産業発展のための手だて・仕組み 第15回：東海地域の特徴と可能性 自然・地理・歴史的条件の再検討 定期試験			
テキスト 自作のオリジナルスライドを作成し視聴用の動画で提供			
参考書・参考資料等 伊藤正昭『地域産業論』学文社、橘川武郎他『地域からの経済再生』有斐閣、 関満博『空洞化を超えて』日経文庫「地域と産業」富田和暁 原書房 他			
学生に対する評価 ミニレポート（20%）、中間レポート（40%）、定期テスト（40%）			

授業科目名： 循環型社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 雅一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ 授業を通じて、循環型社会の制度的、政策的側面を多面的に理解し、循環型社会の実現に向けた実社会の動きに対して、自らの意見を持てるようになることを目標とする。また、レポート課題への取組を通じて、授業で学んだ知識を確認すると同時に、循環型社会の形成に向けた自らの意見を政策提案として具体化できるようになることを目指す。			
授業の概要 授業では、①循環型社会に関する制度的、政策的側面を理解し、②循環型社会を形成するうえでの課題解決に向けた政策提案の基礎的能力を身に付けることを目標とする。また、授業ではレポート課題に取り組むが、この取組を通じて、与えられたレポート課題に対して考え抜く力、具体的には、現状を分析し、レポート作成上の視点や課題を明らかにする力（課題発見力）、課題解決に向けてプロセスを明らかにしようとする力（計画力）、自分の意見を分かりやすく伝える力（発信力）の育成を目指す。			
授業計画 第1回：循環型社会とは何か（1）授業の全体像と循環型社会を学ぶための基礎 第2回：循環型社会とは何か（2）環境問題の変遷と循環型社会 第3回：循環型社会とは何か（3）循環型社会の形成と法体系 第4回：循環型社会の形成とごみ問題（1）循環型社会の形成とごみ問題 第5回：循環型社会の形成とごみ問題（2）ごみ問題の解決に向けた政策手段 第6回：循環型社会の形成と都市システム（1）循環型社会の形成と地域協働 第7回：循環型社会の形成と都市システム（2）地方自治体における地域協働の実態 第8回：循環型社会の形成と都市システム（3）一般廃棄物処理基本計画の実例 第9回：循環型社会の環境マネジメント（1）地域協働EMSの目的 第10回：循環型社会の環境マネジメント（2）地域協働EMSの実例 第11回：循環型社会の環境マネジメント（3）地域協働EMSの設計と構築フロー 第12回：循環型社会の環境マネジメント（4）地域協働EMSのマネジメントシステム 第13回：循環型社会の形成と環境ビジネス（1）循環型社会の形成と市場メカニズム 第14回：循環型社会の形成と環境ビジネス（2）環境ビジネスの実例 第15回：授業全体のまとめ：授業の振り返りと循環型社会の展望 定期試験			
テキスト 自作のオリジナルスライドを作成し視聴用の動画で提供			
参考書・参考資料等 環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%			

授業科目名： 環境保全と 環境アセスメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡村 聖 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・環境アセスメントとは何かを説明できる ・環境アセスメントの手続きの流れを説明できる ・事例から環境アセスメントの意義を説明できる 			
授業の概要 <p>人が豊かな暮らすために必要な開発事業による環境への悪影響を防止するためには、得られる利益や事業の採算性だけでなく、環境の保全についても事前に把握することが重要である。このような考え方から生まれたのが、環境アセスメント（環境影響評価）制度である。環境アセスメントとは、開発事業の内容を決めるに当たって、環境にどのような影響を及ぼすかについて事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して国民、地方公共団体などから意見を聴き、環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げるための制度である。授業では、環境アセスメントの手続きの流れに沿って学ぶと共に、事例を踏まえて環境アセスメントの意義を考察する。</p>			
授業計画 第1回：環境保全と環境アセスメントの概要 第2回：環境アセスメント制度の経緯 第3回：環境アセスメントの対象事業の決定 第4回：計画段階配慮の実施 第5回：配慮方針の決定（配慮書）と意見収集 第6回：アセスメント方法の決定（方法書）と意見収集 第7回：アセスメントの実施 第8回：アセスメント結果の集約（準備書）と意見収集 第9回：アセスメント結果の確定（評価書） 第10回：事業の実施と事後調査 第11回：環境アセスメントの事例①愛知県 第12回：環境アセスメントの事例②静岡県 第13回：環境アセスメントの事例③岐阜県 第14回：環境アセスメントの事例④名古屋市 第15回：まとめ 経済活動と環境保全 定期試験			
テキスト 自作のオリジナルスライドを作成し視聴用の動画で提供			
参考書・参考資料等 各界で随時紹介する。 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%			

授業科目名： 経済学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 久志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ 経済学的な考え方をビジネスや実生活、新規開業に活かすきっかけをつかむことができます。これからどのようなビジネスが伸びるのかを見極め、経済学についての動機づけができることを目指す。			
授業の概要 本講座は現実経済を理解する手段としての経済学を教科書に沿って学び、発生した実例やタイムリーな話題を取り上げ、可能な限りわかりやすく解説し、経済学の基礎を学習します。google検索を使って、現実には発生している経済問題の事例の収集も行う。			
授業計画 第1回：経済学を学ぶことの意味について 第2回：経済学と労働・ビジネス-労働市場の分析の視点 第3回：経済学の扉を開く-市場経済の枠組み 第4回：経済学の扉を開く-市場経済のメカニズム 第5回：経済学と労働・ビジネス-競争的市場 第6回：経済学と労働・ビジネス-独占的市場 第7回：労働経済-労働供給と労働需要 第8回：労働経済-賃金理論、失業 第9回：消費経済-家計、消費財 第10回：貨幣-機能、歴史 第11回：多様な貨幣形態-交換価値 第12回：ビジネスエコノミクス-企業行動や企業戦略 第13回：ビジネスエコノミクス-価格戦略 第14回：多元的市場主義とは何か-市場原理主義の検討 第15回：多元的市場主義-市場経済と計画経済 まとめ 最終試験についての説明 定期試験			
テキスト 瀬川久志『経済学』nextPublishing また、自作のオリジナルスライドを作成し、視聴用の動画を提供			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価 各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%			

授業科目名： ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 久志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ ミクロ経済学の成果を、現実の政策問題、例えば地球温暖化対策におけるカーボンオフセット（排出権取引）問題に適用することで、課題解決のために取るべきビジネス課題の明確化を目標とする。			
授業の概要 家計、企業、政府などの経済主体に働く市場原理と、その相互関係について「市場メカニズム」を分析ツールとして、経済学をまなぶ。需要供給曲線を中心に市場の失敗（欠陥）と政府の介入、政府の失敗のメカニズムを明らかにしていく			
授業計画 第1回：経済学とは 第2回：経済学と生産様式 第3回：市場経済の形成 第4回：市場経済学の利点と欠陥（失敗）、政府の介入の必然性 第5回：家内工業・問屋制家内工業、経済学における資本概念 第6回：機械制大工業、利子生み資本、労働疎外 第7回：利子生み資本、金融の3機能、政治経済学 第8回：金融の3機能、恐慌・景気循環 第9回：多元的市場経済（予備的考察） 第10回：商品と労働の二重性 第11回：労働経済の本質 第12回：労働の諸形態 第13回：分業と生産力 第14回：市場経済の効果と欠点、外部不経済、外部不経済の内部化、温暖化対策、カーボンオフセット、カーボンニュートラル、カーボンクレジット、再生可能エネルギー 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 『経済学』nextPublishing また、自作のオリジナルスライドを作成し、視聴用の動画を提供			
参考書・参考資料等 スタンフォード大学『経済学入門（ミクロ経済学）』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%			

授業科目名： マクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 久志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業の到達目標及びテーマ J. M. ケインズの「雇用・利子・及び貨幣に関する一般理論」、「新古典派総合」へ至る理論の発展を概観し、GDP、貿易、国際収支、雇用（失業）、地価、株価、物価、公共投資、景気循環などのマクロ経済指標の分析を通じて、企業経営の的確な判断ができる力を涵養する。			
授業の概要 経済学の3大流派（マルクス経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学）の一角に位置するマクロ経済学について学ぶ。最も難解な経済学分野ではあるが、マクロ経済学の考え方と、マクロ経済の主要な指標を理解し、生きた経済の実態と展開に迫る。			
授業計画 第1回：マクロ経済学とは何か① ミクロ経済学との違い 第2回：マクロ経済学とは何か② 様々なアプローチ法の中の位置づけ 第3回：ケインズ経済学の登場 第4回：ケインズ経済学と公共投資 第5回：主要なマクロ経済指標を読む GDP 第6回：剰余価値の生産①雇用・個人消費 第7回：剰余価値の生産②設備投資 第8回：社会資本①住宅投資 第9回：社会資本②公共投資 第10回：拡大再生産①輸出入・国際収支 第11回：拡大再生産②生産・出荷・在庫 第12回：景気循環①企業収益・業況判断・倒産 第13回：景気循環②物価、金融 第14回：市場の失敗①市場介入 第15回：政府の介入 まとめ 定期試験			
テキスト 瀬川久志『経済学』の第4部「マクロ経済学概説」（nextPublishing） また、自作のオリジナルスライドを作成し、視聴用の動画を提供			
参考書・参考資料等 スタンフォード大学『経済学入門（ミクロ経済学）』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%			

授業科目名： 地域経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 久志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>学生にとって地域経済は卒業後の職業の選択、社会人にとっては転職やリスキリング後の職業生活の現実の受け皿であり、中央政府の政策や地方政府の政策によって、大きな絵お経を受ける場である。地域経済に求められる役割や変化を学び「企業と利害関係者が協働しながら新しい価値を創造していく共創の力を養う」。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>経済学の理解を「経済の現場」である地域経済におろして理解します。ひとつの国の地域という意味と、複数の国がまとまりをなして地域を構成しているような場合（例えばasean）も対象になりますが、授業では前者に限定して、地域開発政策の歴史を紐解きながら、内発的発展という角度から地域経済の将来を展望します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地域の魅力について 第2回：地域経済へのいざない 第3回：地域経済の前史、経済の不均等発展、移植型発展 vs 内発的発展 第4回：資本主義の本源的蓄積、資本主義の成立過程 第5回：製鉄の前駆たたら 第6回：地域経済の構成：全般 第7回：地域経済の構成：経済の地域的不均等発展と過密・過疎 第8回：地域経済の構成：資本主義的生産様式における地域的分業と地域経済、社会的分業、国際分業 第9回：地域経済の構成：労働の生産性 第10回：地域経済の構成：「地域経済論」、「経済の地域的不均等発展と過密・過疎」 第11回：地域開発の歴史～リニア中央新幹線構想 第12回：新国土形成計画法 第13回：地域事例研究 第14回：地域経済と人材、地域ベンチャー 第15回：内発的発展と共創 まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>瀬川久志『経済学』nextPublishing。第3部の「地域経済論」を使用する また、自作のオリジナルスライドを作成し、視聴用の動画を提供</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回の課題あるいは確認テスト30%、単位取得試験70%</p>			

授業科目名： 倫理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業の到達目標及びテーマ 「知識・技能」 （１）倫理学の歴史と思想について、基礎的な知識を説明できる。 （２）倫理的な諸問題に関連する理論や原則などを自分の言葉で説明できる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）西洋や日本の倫理的思想が現代に生かせるかを考える。 （２）倫理的な諸問題について、賛成論と反対論の両方の理由や根拠を主張できる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）倫理的な諸問題について、主体的に考え、主張できる。 （２）他者と協働して倫理的な諸問題の解決に取り組むことができる。			
授業の概要 倫理学の歴史と思想を理解し、自分の生き方を考える。西洋や日本の倫理的思想を理解し、現代の倫理的な諸問題を自ら考え、判断する。			
授業計画 第1回：授業概要の説明、倫理学とは何か、倫理的な諸問題とは何か。 第2回：古代ギリシアの思想(1)ーソクラテス、プラトンなど。 第3回：古代ギリシアの思想(2)ーアリストテレス、ヘレニズムの思想など。 第4回：西洋の近代思想(1)ールネサンス、宗教改革など。 第5回：西洋の近代思想(2)ー経験論、合理論など。 第6回：西洋の近代思想(3)ールソー、カント、ヘーゲルなど。 第7回：西洋の現代思想(1)ー社会主義、実存主義など。 第8回：西洋の現代思想(2)ープラグマティズムなど。 第9回：西洋近代思想の受容(1)ー西洋文明との接触、啓蒙思想など。 第10回：西洋近代思想の受容(2)ー近代的自我の確立など。 第11回：倫理的な諸問題(1)ー地球環境問題(地球温暖化)など。 第12回：倫理的な諸問題(2)ー循環型社会(リサイクル)など。 第13回：倫理的な諸問題(3)ー家族の問題(こうのとりのかご)など。 第14回：倫理的な諸問題(4)ー生命倫理(出生前診断)など。 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 品川哲彦『倫理学入門』中公新書 2020			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価 倫理学の歴史と思想を理解し、②倫理的な諸問題を理解し、その解決策を考え、③主体的に授業に参加できれば、合格。 評価方法 各回に課す課題(40%)、学期末テストまたはレポート(60%)			

授業科目名： 道徳と宗教	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業の到達目標及びテーマ 「知識・技能」 （1）道徳教育と3大宗教について、基礎的な知識を説明できる。 （2）日常生活に対する宗教の影響を自分の言葉で説明できる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）道徳的思考能力を鍛え、十戒など宗教の教えの役割や意義を説明できる。 （2）対話によって自分の考えと他者の考えとを比較し、どちらがより納得のいく考えかを判断できる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）道徳的問題や宗教に関する行事などについて、主体的に考え、現代における意味を説明できる。 （2）他者と協働して道徳と宗教に関する理解を深めることができる。グループ・ディスカッションが円滑にできる。			
授業の概要 道徳と宗教の関係を考え、それぞれの役割や意義を理解する。道徳とは何かを考え、道徳教育の在り方を学修する。世界の3大宗教の歴史や教義などを理解する。日常生活に対する宗教の影響を考える。			
授業計画 第1回：道徳とは何か、道徳と教育、小・中・高校の道徳教育 第2回：道徳の教科化など 第3回：L・コールバーグの道徳教育論など 第4回：価値の明確化の方法など 第5回：T・リコーナの人格教育など 第6回：人格教育批判など 第7回：二宮金次郎から学ぶことなど 第8回：ディベートによる道徳教育、宗教の自由、宗教的中立性など 第9回：日本人の宗教観、お寺と神社、仏教と神道など 第10回：仏教伝来、奈良仏教・平安仏教、鎌倉仏教など 第11回：宗教と日常生活―初詣、結婚式、葬式など 第12回：キリスト教―ユダヤ教、モーゼの十戒、復活信仰など 第13回：キリスト教―原罪、神の愛と隣人愛など 第14回：イスラム教―コーラン、六信、五行、ハラールなど 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 伊藤利明『現代の道徳教育』中日文化 2016 茂木誠『三大宗教の読み方』実務教育出版 2015			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「公民編」』			
学生に対する評価： 宗教の現状を理解し日常生活における宗教の影響を考え主体的に授業に参加できれば合格。 評価方法：各回に課す課題（40%）、学期末テストまたはレポート（60%）			

授業科目名： 社会科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：原 宏史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (1) 中学校中学校学習指導要領における社会科の目標と内容を理解する。 (2) 中学校の教科書の内容を理解する。 (3) 地理、歴史、公民的分野について、適切な学習指導案が作成できる。 (4) 板書、発問、ワークシートを準備できる。 (5) 模擬授業において、ICTの活用ができる。 (6) 学習評価の内容・方法が確立している。 (7) 模擬授業と振り返りが適切にできる。グループ・ディスカッションを実施できる。			
授業の概要 学習指導要領に示された中学校社会科の目標・内容を理解する。学習指導要領の内容を十分に理解したうえで、地理、歴史、公民的分野の学習指導案を作成し、ICTを活用しながら模擬授業を実施する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、中学校社会科教員とは何か、社会科の歴史の変遷をたどる。中学校社会科の存在意義を理解する。 第2回：中学校学習指導要領の社会科の目標を理解する。中学校社会科の目標を確認する。 第3回：中学校学習指導要領の社会科の内容を理解する。中学校社会科の内容を確認する。 第4回：中学校学習指導要領解説社会編を理解する。中学校学習指導要領解説社会編を確認する。 第5回：中学校社会科の教材研究を行う。(1) 地理的分野 中学校社会科の中の地理的分野の内容を確認する。 第6回：中学校社会科の教材研究を行う。(2) 歴史的分野 中学校社会科の中の歴史的分野の内容を確認する。 第7回：中学校社会科研究 (3) 公民的分野 中学校社会科の中の公民的分野の内容を確認する。 第8回：学習指導案作成の必要性、細目を理解する。 学習指導案作成の理由、項目を理解する。ICTを活用することを考える。 第9回：教材研究とは何か 教科書研究の基本・発展教材の作り方 ICTを活用した教材研究の必要性を理解する。 第10回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(1) 単元設定の理由の書き方 単元設定の理由を実際に書いてみる。ICTを活用することを取り入れる。 第11回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(2) 単元の目標、指導計画の書き方 単元の目標を書き、ICTを活用した指導計画案を作成する。ICTを活用することを取り入れる。 第12回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(3) 指導課程、板書と発問、ワークシートなど。指導過程を3区分に従って、記入する。ICTを活用することを取り入れる。 第13回：ICTを活用した模擬授業を実施する。(1) 地理・歴史的分野 地理・歴史的分野の模擬授業を実施する。 第14回：ICTを活用した模擬授業を実施する。(2) 公民的分野 公民的分野の模擬授業を実施する。 第15回：社会科教育法Ⅱに向けた模擬授業の割り振り、グループ・ディスカッションを行う。 模擬授業の振り返りを行う。ICTの活用の有効性を振り返る。			
定期試験			
テキスト 社会認識教育学会（編集）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説社会編			
学生に対する評価 教材研究・学習指導案の作成50%と模擬授業50%で評価する。			

授業科目名： 社会科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原 宏史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （1）中学校社会科の目標と内容を確認し、自身の言葉で表現できる。 （2）中学校の教科書の内容を理解し、補足的な説明を加えることができる。 （3）地理、歴史、公民的分野について、適切な学習指導案が円滑に作成できる。 （4）板書、発問、ワークシートを準備できる。 （5）模擬授業において、ICTの活用ができる。 （6）学習評価の内容・方法が確立している。 （7）ICTを活用した模擬授業の実施と振り返りが適切にできている。			
授業の概要 学習指導要領に示された中学校社会科の目標・内容を理解する。学習指導要領の内容を確認したうえで、地理、歴史、公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業には、社会科の重要な用語を検索したり、自身の考えをまとめたりすることに、ICTを活用することを心掛ける。			
授業計画 第1回：ガイダンス、社会科教育法Ⅱの模擬授業の割り振りを行う。 計画性を持って、模擬授業の日程を決める。中学校社会科の教科書の担当個所を決める。 第2回：学習指導案作成の必要性、細目を確認する。 ICTを活用した学習指導案作成に向けて、学習指導案の様式を確認する。 第3回：教材研究とは何か、教科書研究の基本・発展教材の作り方を確認する。 ICTの活用を目指した教材研究を十分に行う。 第4回：中学校学習指導要領の社会科の目標を確認する。 学習指導要領の社会科の目標を確認し、単元の目標につなげる。 第5回：中学校学習指導要領の社会科の内容を確認 学習指導要領の社会科の内容を確認し、取り上げる単元を決める。 第6回：中学校学習指導要領解説社会編を確認 中学校学習指導要領解説社会編を確認し、重点事項を理解する。 第7回：中学校社会科の教材研究を行う。(1)地理的分野 教科書のどの単元を取り扱うのかを決める。 第8回：中学校社会科の教材研究を行う。(2)歴史的分野 教科書のどの単元を取り扱うのかを決める。 第9回：中学校社会科の教材研究を行う。(3)公民的分野 教科書のどの単元を取り扱うのかを決める。 第10回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(1)単元設定の理由の書き方 単元設定の理由を実際に書いてみる。ICTの活用を取り入れる。 第11回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(2)単元の目標、指導計画の書き方 単元の目標を書いてみる。ICTの活用を取り入れる。 第12回：ワード又はエクセルで学習指導案を作成する。(3)指導過程、板書と発問、ワークシートなどを作成する。 ICTの活用を取り入れる。指導過程の3区分を書き、板書計画等も計画する。 第13回：ICTを活用した模擬授業を実施する。(1)地理・歴史的分野 模擬授業を実施する。 第14回：ICTを活用した模擬授業を実施する。(2)公民的分野 模擬授業を実施する。 第15回：ICTを活用した模擬授業の振り返り、グループ・ディスカッション 自身や他の人の模擬授業の振り返りを行い、改善点を確認する。			
定期試験			
テキスト 社会認識教育学会（編集）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説社会編			
学生に対する評価 教材研究・学習指導案の作成50%と模擬授業50%で評価する。			

授業科目名： 社会科・公民科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>以下の観点から指導内容の理解と指導方法の実践ができています。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）教科の全体構造が理解できている。 （2）授業ごとの指導上の留意点が理解できている。 （3）学習評価の内容・方法が確立している。 （4）学習者の実態が把握できている。 （5）情報機器や教材の活用ができています。 （6）適切な学習指導案が作成できている。 （7）ICTを活用した模擬授業の実施と振り返りが適切にできている。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校社会科・高等学校公民科学習指導要領の目標や内容などを踏まえつつ、ICTを活用した授業でいかなる工夫をすれば生徒たちに社会科・公民科に興味や関心を抱かせつつ公民的資質を育成させることができるかを、政治・経済・国際関係などの領域を中心として内容研究を深めることにより学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：中学校社会科・高等学校公民科教員とは何か</p> <p>第2回：中学校社会科教科研究（1）地理分野</p> <p>第3回：中学校社会科教科研究（2）歴史分野</p> <p>第4回：中学校社会科教科研究（3）公民分野</p> <p>第5回：高等学校公民科教科研究（1）公共</p> <p>第6回：高等学校公民科教科研究（2）政治経済</p> <p>第7回：高等学校公民科教科研究（3）倫理</p> <p>第8回：教育実習と学習指導案</p> <p>第9回：教材研究とは何か 教科書研究の基本・発展教材の作り方</p> <p>第10回：学習指導案をワード又はエクセルで作成（1）単元観、特に「生徒の実態」の書き方</p> <p>第11回：学習指導案をワード又はエクセルで作成（2）指導観の書き方</p> <p>第12回：学習指導案をワード又はエクセルで作成（3）発問と評価について</p> <p>第13回：ICTを活用した模擬授業をしてみよう（1）受講者全員で1つの授業を作る</p> <p>第14回：ICTを活用した模擬授業をしてみよう（2）授業の振り返り</p> <p>第15回：社会科・公民科教育法2に向けた模擬授業の割り振り</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育実習を考える会編 『教育実習のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』 改訂版 2015年 蒼丘書林</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校・高等学校学習指導要領、中学校社会科および高等学校公民科教科書</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>教材研究・学習指導案の作成50%と模擬授業50%で評価する</p>			

授業科目名： 社会科・公民科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>以下の観点から指導内容の理解と指導方法の実践ができています。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）教科の全体構造が理解できている。 （2）授業ごとの指導上の留意点が理解できている。 （3）学習評価の内容・方法が確立している。 （4）学習者の実態が把握できている。 （5）情報機器や教材の活用ができています。 （6）適切な学習指導案がワード又はエクセルを用いて作成できている。 （7）ICTを活用した模擬授業の実施と振り返りが適切にできている。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校社会科・高等学校公民科学習指導要領の目標や内容などを踏まえつつ、ICTを活用した授業でいかなる工夫をすれば生徒たちに社会科・公民科に興味や関心を抱かせつつ公民的資質を育成させることができるかを、政治・経済・国際関係などの領域を中心として内容研究を深めることにより学んでいく。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を順に実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：模擬授業のテーマと割り振りの確認</p> <p>第2回：ICTを活用した模擬授業（1）第1グループ実施</p> <p>第3回：ICTを活用した模擬授業（2）第1グループ振り返り</p> <p>第4回：ICTを活用した模擬授業（3）第2グループ実施</p> <p>第5回：ICTを活用した模擬授業（4）第2グループ振り返り</p> <p>第6回：ICTを活用した模擬授業（5）第3グループ実施</p> <p>第7回：ICTを活用した模擬授業（6）第3グループ振り返り</p> <p>第8回：ICTを活用した模範授業の良かった点を指摘、主な発問、板書、ワークシートを点検</p> <p>第9回：ICTを活用した模範授業の良くなかった点を改善、タブレットの活用をさらに考える（タブレットで検索、タブレットで意見を提出、タブレットで学習内容をまとめ、発表）</p> <p>第10回：ICTを活用した模擬授業（7）第1グループ再授業</p> <p>第11回：ICTを活用した模擬授業（8）第1グループ反省会</p> <p>第12回：ICTを活用した模擬授業（9）第2グループ再授業</p> <p>第13回：ICTを活用した模擬授業（10）第2グループ反省会</p> <p>第14回：ICTを活用した模擬授業（11）第3グループ再授業</p> <p>第15回：ICTを活用した模擬授業（12）第3グループ反省会</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育実習を考える会編 『教育実習のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』 改訂版 2015年 蒼丘書林</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校・高等学校学習指導要領、中学校社会科および高等学校公民科教科書</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>教材研究・学習指導案の作成50%と模擬授業50%で評価する</p>			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古澤 健一 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法の基本原理や基本構造を体系的に学び、「国民主権」や「人権の尊重」などの基本原理を学習する。日本国憲法の条文自体の知識を身につけることも必要であるが、日本国憲法の内容を包括的に理解することを第1の目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法を学ぶということは、単に憲法の基本原理や基本構造を理解するというにとどまらない。憲法の基本原理や基本構造を理解し、さらにそれを深め続けて、社会に生起する問題を考えていくことが大切である。「立憲主義」や、それを支える「国民主権」「人権の尊重」「平等」などが持つ意味を理解し、それらの原理に基づき、諸問題に取り組む力を身につける。また、国家を運営するために必要な議会・内閣・裁判所といった諸制度(統治機構)や平和主義などを学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本国憲法を学ぶ意味とは？</p> <p>第2回：「包括的基本権」幸福追求権の意味と「新しい権利」とは？</p> <p>第3回：「法の下での平等」不合理な差別とその是正とは？</p> <p>第4回：「精神的自由権（1）」表現の自由と「知る権利」とは？</p> <p>第5回：「精神的自由権（2）」思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由とは？</p> <p>第6回：「経済的自由権」職業選択の自由、財産権の補償とは？</p> <p>第7回：「社会権」生存権、教育を受ける権利とは？</p> <p>第8回：「参政権」選挙権・被選挙権、国民主権とは？</p> <p>第9回：「国会」国権の最高機関の地位と役割とは？</p> <p>第10回：「内閣」行政権、執政権とは？</p> <p>第11回：「裁判所」司法権、違憲審査、裁判員制度とは？</p> <p>第12回：「地方自治」地方公共団体の役割とは？</p> <p>第13回：「象徴天皇制」天皇の歴史と現代における存在意義とは？</p> <p>第14回：「平和主義」憲法9条の成立過程と解釈の変遷とは？</p> <p>第15回：「憲法保障」憲法を護るには？</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>初宿正典ほか著「いちばんやさしい憲法入門第6版」有斐閣アルマ</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート（20%）、定期試験（80%）で評価する。</p>			

授業科目名： 健康と運動の科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森下純弘 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持・増進のための理論を学習し理解する。 ・スポーツに関する基礎的な知識・技術を習得する。 ・エビデンスのあるデータを用いて適切な答えを判断する。 ・自身の健康について考え直すことができる。 ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、運動・健康について科学的知見を踏まえて理解していく。 さらに、心身ともに健やかに過ごすための知識・技術の習得や運動の意義について多角的に学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：スポーツの意義と価値 第2回：スポーツ指導者とは 第3回：スポーツ及び教育の定義 第4回：スポーツの教育的可能性 第5回：スポーツ活動と安全管理 第6回：スポーツインテグリティ 第7回：障がい者・女性とスポーツ 第8回：身体活動の必要性 第9回：トレーニング（体力） 第10回：トレーニング（スキル・心） 第11回：スポーツに関する医学的知識 第12回：スポーツと栄養 第13回：スポーツと倫理（アンチドーピングを含む） 第14回：スポーツ教育モデル（検討） 第15回：スポーツ教育モデルのプレゼンテーション（資料作成）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>JSPQ リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会 電子版：3,520円</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>発表資料（40%）定期試験（60%）により評価する。</p>			

授業科目名： イングリッシュ コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Emily Louise Bailey 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の目標は、様々な場面で英語力を高めることである。 以下のスキルのバランスをとる。</p> <p>英語コミュニケーションの実践：話すことと書くこと（生産的なスキル） 英語の理論：文法、語彙、聴解、読解（受容的なスキル）</p> <p>自立して、英語力を身に着けて、完璧ではなくても様々な場面で英語で会話ができるようにする。新しい工夫や記憶術を見つけて文法や表現を理解し、暗記して、自分で使えるようにする。英語だけではなく、語学の勉強方法も学ぶ。 身近なテーマと生徒の経験や意見を生かして、興味を持って会話を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、様々な場面で使用される英語のフレーズと使い方を学ぶ。Case Studyで使用した文法と語彙についての振り返りを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、クラスの内容、規則、評価方法等の説明 第2回：Case study 1～4 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（日常会話） 第3回：Case study 1～4 文法と意味を学ぶ（日常会話） 第4回：Case study 5～8 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（買い物） 第5回：Case study 5～8 文法と意味を学ぶ（買い物） 第6回：Case study 9～12 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（飲食） 第7回：Case study 9～12 文法と意味を学ぶ（飲食） 第8回：Group Session 会話、プレゼンテーション、日常会話等のフィードバック 第9回：Case study 13～16 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（旅行・観光） 第10回：Case study 13～16 文法と意味を学ぶ（旅行・観光） 第11回：Case study 17～20 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（スポーツ） 第12回：Case study 17～20 文法と意味を学ぶ（スポーツ） 第13回：Case study 21～24 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（仕事） 第14回：Case study 21～24 文法と意味を学ぶ（仕事） 第15回：Group Session 会話、プレゼンテーション、旅行・観光などのフィードバック</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>習熟度（20%）、日記（25%）、プレゼンテーション（25%）、定期試験（30%）</p>			

授業科目名： イングリッシュ コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Emily Louise Bailey 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の目標は、様々な場面で英語力を高めることである。 以下の2つのスキルのバランスをとる。</p> <p>英語コミュニケーションの実践：話すことと書くこと（生産的なスキル） 英語の理論：文法、語彙、聴解、読解（受容的なスキル）</p> <p>自立して、英語力を身に着けて、完璧ではなくても様々な場面で英語で会話ができるようにする。新しい工夫や記憶術を見つけて文法や表現を理解し、暗記をして、自分で使えるようにする。英語だけではなく、語学の勉強方法も学ぶ。 身近なテーマと生徒の経験や意見を生かして、興味を持って英語で会話を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、イングリッシュコミュニケーションⅠと同様に、様々な場面で使用される英語のフレーズと使い方を学び、Case Studyで使用した文法と語彙についての振り返りを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、クラスの内容、規則、評価方法等の説明 第2回：Case study 25～28 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（パーティー） 第3回：Case study 25～28 文法と意味を学ぶ（パーティー） 第4回：Case study 29～32 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（日本文化） 第5回：Case study 29～32 文法と意味を学ぶ（日本文化） 第6回：Case study 33～36 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（歴史） 第7回：Case study 33～36 文法と意味を学ぶ（歴史） 第8回：Group Session 会話、プレゼンテーション、パーティなどの場面のフィードバック 第9回：Case study 37～40 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（夢） 第10回：Case study 37～40 文法と意味を学ぶ（夢） 第11回：Case study 41～44 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（喜怒哀楽） 第12回：Case study 41～44 文法と意味を学ぶ（喜怒哀楽） 第13回：Case study 45～48 英語フレーズの意味と使い方を学ぶ（契約） 第14回：Case study 45～48 文法と意味を学ぶ（契約） 第15回：Group Session 会話、プレゼンテーション、感情表現などのフィードバック（2回目） 定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>習熟度（20%）、日記（25%）、プレゼンテーション（25%）、定期試験（30%）</p>			

授業科目名： 文書情報リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：桑山 裕美 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートや卒業論文の作成に必要な操作ができる。 ・オフィスワークで必要とされる文書化の基礎知識を得る。 ・インターネットにおける情報検索やE-Mail利用時のマナーを理解する。 ・学生生活においてはレポート作成、インターンシップ参加時に活用できる。 ・マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) の合格基準に達する (事前学習として)。 ・卒業後はオフィスワークに活用できる。 			
授業の概要 <p>Microsoft Excelを用いて、文書処理の基本技術と関連知識を学修する。また、インターネットにおける情報検索とE-Mail交換による情報活用、コンピュータネットワーク利用の注意事項、論文作成時の引用方法等の解説も併せて行う。</p>			
授業計画 <p>第1回：パソコン利用の基本事項とパスワード管理 第2回：E-Mailの作成と送信 第3回：文書作成の基礎（入力と保存） 第4回：E-Mailの受信・返信、文字列編集と効果的な文字修飾 第5回：ビジネス文書の基本事項と段落書式を活用した定型文書の作成 第6回：文書における効果的な表形式とリスト形式の表現 第7回：表の加工、インターネットの基本事項、Webページの閲覧と検索手法 第8回：イラスト・写真・図形・装飾文字による表現効果の活用と異なる ファイル形式での保存（画像・アイコンの挿入、罫線） 第9回：イラスト・写真・図形・装飾文字による表現効果の活用と異なる ファイル形式での保存（ワードアート、SmartArt、ページの色） 第10回：Excelデータの利用、スクリーンショット 第11回：段組み・テキストボックスの活用 第12回：レポートなどの長文作成に便利な機能 （表紙の挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入） 第13回：レポートなどの長文作成に便利な機能 （脚注、参考文献、検索と置換、スペルチェックと文章校正） 第14回：他のユーザーと共同作業を行うときに便利な機能、E-Mailの同報送信、 添付ファイルの受信、メールのフォルダ管理 第15回：振り返り、実技試験対策</p>			
定期試験			
テキスト <p>「30時間アカデミック Word & Excel 2019」 実教出版 定価1,540円</p>			
参考書・参考資料等 <p>特に指定しない</p>			
学生に対する評価 <p>定期試験(50%)、課題(50%) ※課題5種類の提出を義務付ける</p>			

授業科目名： 数値情報リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：桑山 裕美 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生生活で必要とされる、基本的な表とグラフの作成ができるようになる。 ・ オフィスワークにおいて使用頻度の高い関数とデータ分析機能を理解する。 ・ 学生生活においては他科目でのデータ分析やレポート作成、インターンシップ等で活用できる。 ・ マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) の合格基準に達する (事前学習として)。 ・ 卒業後はオフィスワークに活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>Microsoft Excelを用いて、数値を集計するために必要な基本技術と関連知識を学修し、数式・関数・グラフ化・集計機能を修得するための科目です。またデータを分析するために必要となるデータの収集方法も併せて学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：基本的な仕組みと用語 第2回：数式と編集の基礎 第3回：シート操作と効率的な編集操作 第4回：数式に使用するセルの参照形式、関数 (数える、条件判断) 第5回：数式に使用するセルの参照形式、関数 (文字列の処理) 第6回：数式に使用するセルの参照形式、関数 (エラー処理) 第7回：目的を明確化するグラフ作成 第8回：情報の分析 (テーブル機能・情報収集の方法) 第9回：情報の分析 (度数分布) 第10回：情報の分析 (表の成型) 第11回：情報の分析 (インポートとデータの視覚化) 第12回：情報の分析 (ピボットテーブル) 第13回：情報の分析 (別表の参照とエラー回避) 第14回：集計結果を反映した報告書作成 第15回：振り返り、実技試験対策</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「30時間アカデミック Word & Excel 2019」 実教出版 定価1,540円</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験 (50%)、課題 (50%) ※課題の提出を義務付ける</p>			

授業科目名： プレゼンテーション 技法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：桑山 裕美 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を効果的に表現し、皆の前でプレゼンテーションできるようになる。 ・他者の発表から自分とは違う考え方などを学び取り、個人の発表に活用できるようにする。 ・パワーポイントの使い方を習得するとともに、プレゼンテーション資料のためのスライドの作成方法を理解する。 ・他教科での発表、インターンシップへの参加、就職活動など、意見をまとめて発表する場面に活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々なビジネスシーンで活用されているプレゼンテーションについて、Microsoft PowerPointを用いて、ドラフトからプレゼンテーションの発表資料作成を行う。アニメーションや画像、文字の大きさから、より視聴者の目を引く方法について、また、相手に伝えたい情報が何かを分析し、効果的なプレゼンテーションは何かを探求する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：PowerPointに慣れよう（新規作成、シートデザイン） 第2回：PowerPointに慣れよう（テンプレート、字下げ、レイアウト変更） 第3回：PowerPointに慣れよう（スライドの移動・削除・複製、画面切り替えとアニメーション効果） 第4回：PowerPointに慣れよう（配色・フォント、スライドマスター、グラフ・表） 第5回：PowerPointに慣れよう（図形描画、スライドマスターの活用、 アニメーション効果と画面切り替えの活用） 第6回：PowerPointに慣れよう（サマリーズーム、別ファイルからスライドのコピー、 セクションの追加） 第7回：自己紹介（アイデア出し→まとめ→ストーリー作り） 第8回：情報収集（視覚化：フレーズ化、図解化、カラー化） 第9回：スライドを1つにまとめ、リハーサル 第10回：自己紹介の発表動画の作成 第11回：事前準備の重要性を確認（内容、ストーリー、視覚情報、発表者の表現等） 第12回：提案資料のストーリーシート作成 第13回：提案資料のスライド作成、リハーサル 第14回：提案資料の発表動画の作成 第15回：他の学生の発表を視聴し評価のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019（Windows10対応）」 実教出版企画開発部 定価1,100円</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>個人の作品（50%）、発表（30%）、評価シート（20%）で評価する。</p>			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ (1) 教育を成り立たせる要素（教育学の諸概念等）を理解している。 (2) 教育の歴史について理解し、近代教育制度の成果と課題について考察できる。 (3) 現代社会における教育の諸課題について考察できる。 (4) 代表的な教育家の思想を教育活動に活用することができる。			
授業の概要 「教育とは何か」について、古今東西の事象について幅広く考察する。そして、それぞれの事象について、現在の特に学校教育にどのようなつながっているかについて、深い理解を目指す。授業の形態はアクティブラーニングを旨とし、事例研究を通じた追究型でおこなう。			
授業計画 第1回：受講者個々の教育の振り返り 第2回：教育の作用と反教育 第3回：西洋教育史（1）近代化以前の教育 第4回：西洋教育史（2）近現代の教育の隆盛 第5回：日本教育史（1）明治時代以前の教育 第6回：日本教育史（2）明治時代以後の教育 第7回：学校教育と社会教育の違い 第8回：学校教育の枠組み 第9回：近代学校教育の成果と問題点 第10回：学校教育のカリキュラムとは何か 第11回：学習指導要領と教科書 第12回：変わりつつある教育（学習指導要領の改訂） 第13回：家庭教育の役割 第14回：生涯教育の役割 第15回：原点回帰、教育とは何か 定期試験			
テキスト 伊藤潔志『哲学する教育原理』 教育情報出版、2023年			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年告示）、高校学習指導要領（平成30年告示） 他は、授業内に適宜紹介する。			
学生に対する評価 受講態度（授業内のミニレポート・討論への参加含む）70%、定期試験30%			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教員の職業としての専門性等を次の観点から理解し実践に結びつけるようにする。</p> <p>(1) 教員の存在意義と職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 今日の教員に特に求められる資質・能力について考察することができる。</p> <p>(3) 教員は生涯を通じて学び続ける存在であることを理解している。</p> <p>(4) 「チーム学校」の確立について展望することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教員は専門的な教育の担い手として主体的な判断を求められるとともに、学校という組織的な教育機関の中で一定の役割を分担する存在であるという視点から、教員のあり方について多面的に考察する。</p> <p>授業の形態はアクティブラーニング型のケースメソッドを多用し、教師になったつもりで意思決定する場面をたくさんつくる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：高等学校教師とは何か</p> <p>第2回：理想の教師像</p> <p>第3回：教員養成の実際</p> <p>第4回：教員の任用と服務</p> <p>第5回：校務分掌 (チーム学校運営も含めて)</p> <p>第6回：管理職・主任の役割 (チーム学校運営も含めて)</p> <p>第7回：教員と研修</p> <p>第8回：教育実習と教員</p> <p>第9回：教員採用試験とは</p> <p>第10回：教師のライフステージ</p> <p>第11回：授業か部活か 教師の生き方</p> <p>第12回：教師が参加する研究会</p> <p>第13回：教師を取り巻く病理</p> <p>第14回：モンスターペアレントと教師</p> <p>第15回：改めて教師の面白さとは</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>元兼正浩他『教職論エッセンス』 2015年、花書院</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業のレポート (50%)、討論への参加態度 (50%) で判断。</p>			

授業科目名： 教育経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤利明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 現代の学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項について基礎的な知識を身に付ける。また、不登校・体罰・いじめ・自殺・学校事故といった問題と教育法の関連を理解する。学校と地域との連携と協働の重要性を知るとともに、学校安全についての基礎的な知識を身に付ける。学習した基礎的な知識を自分の言葉で説明、発表することができる。			
授業の概要 社会の変化が学校教育にもたらす影響とその課題、それらを解決するための教育政策の動向を検討する。現代の公教育制度の意義や原理、構造について、その法的・制度的仕組みとともに、それらの課題について具体的事例を挙げて解明する。学校と教育行政機関の目的について、経営の観点から考察する。学校と地域の連携や協働の仕方の事例と併せ、学校の管理下で起こる事件や事故の事例と、危機管理を含む学校安全の目的・取組を学ぶことを目的とする。			
授業計画 第1回：地域との連携や協働による学校教育活動と開かれた学校づくり 第2回：学校を巡る変化と教育制度の改革 第3回：学校管理・教育課程と教育法 第4回：児童・生徒の管理と懲戒・出席停止 第5回：不登校・体罰と教育法 第6回：いじめ・自殺・学校事故と教育法 第7回：子どもの貧困と奨学金 第8回：教科書の検定と採択 第9回：教員養成と教職員の服務 第10回：教員研修と教員の給与・待遇 第11回：求められる教員の力量と学級経営 第12回：学校評価とPDCA 第13回：入試制度と学びの質保証 第14回：海外の教育制度 第15回：海外の教育改革 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 新・教育制度論—教育制度を考える15の論点（高妻紳二郎編 ミネルヴァ書房） 中学校学習指導要領（平成29年告示）、高校学習指導要領（平成30年告示）			
学生に対する評価 定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本田 真 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 生徒の学びと適応を理解するために必要な心理学的な基礎知識を身に付け、生徒の心理（心と行動）を理解できるようになることを目標としている。人はどのように知識を獲得するのかといった学びのメカニズムをしっかり理解することで適切な援助ができるようになる。また人間関係の仕組みを心理学的に学ぶことで、生徒の豊かな人間関係づくりや学びを支える指導について客観的に考え実践できるようになる。			
授業の概要 教育心理学の基本的な考え方、理論、用語について学び、学校教育現場で起こっている現象や問題を取り上げながら、それらの理解を深める。具体的には、学びにおける動機づけと学習の諸理論を理解した後、学びの開発と支援の具体例について学び、発達心理学や社会心理学、臨床心理学と知見を交差しながら適応について多角的に検討をしていく。			
授業計画 第1回：講義の概要について 第2回：教育心理学の研究領域 第3回：教育心理学の研究手法 第4回：学びの場 第5回：学びの意欲 第6回：学びの仕組み 第7回：学びの開発と体系化 第8回：主体的な学びの授業 第9回：適応の理解と支援（1）自立と社会性の学び 第10回：適応の理解と支援（2）子どもへの支援 第11回：適応の理解と支援（3）適応の評価 第12回：教師自身の成長 第13回：幼児期と児童期 第14回：青年期 第15回：子どもの学習の基礎理論、まとめ 定期試験			
テキスト 中澤潤 2008 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 講義内で紹介する。			
学生に対する評価 受講態度を30%、定期試験を50%、小レポートを20%により総合的に判定する。			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本田 真 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. 特別支援教育は、障害の有無にかかわらず、すべての子どもができるだけ同じ場で、共に育つことを目指すインクルーシブ教育の推進が目指されていることが理解できる。</p> <p>2. すべての教員は、幼児、児童及び生徒の学習上の又は生活上の困難さを理解し、個別の教育ニーズに対して、他の教員及び関係機関と連携しながら、組織的に対応できる力量が求められていることを理解するとともに、授業中に提示された想定事例について、グループワークで主体的に関わり、自分の意見を論理的に展開できる。</p> <p>3. 特別支援教育を人権の視点から考えることができる。</p> <p>4. 通級による指導の在り方を理解し、自立活動の内容を学修する。</p>			
授業の概要			
<p>特別支援教育の推進は、すべての人がお互いの人格と個性を尊重し、多様性を認め合い、支え合うことで、誰もがいきいきと暮らしていける共生社会の形成のために大切であることが理解できる。特別支援教育の推進のために、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、ニーズに応じた適切な支援を行っていくための、一定の知識と支援の方法について事例検討などによる考察も行いながら学習する。通級による指導の現状を理解し、自立活動の内容を学修する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、特別支援教育の歴史・インクルーシブ教育の理念</p> <p>第2回：障害のある子どもの教育の場とは：特別な指導の場と指導内容</p> <p>第3回：特別支援教育に関する制度及び主な法令、特別支援教育の組織体制</p> <p>第4回：障害とそれに伴う困難さの理解と対応1（障害の種別と援助）</p> <p>第5回：障害とそれに伴う困難さの理解と対応2（発達障害と二次障害）</p> <p>第6回：言語や貧困等の問題をもつ子どもの理解と対応</p> <p>第7回：個に応じた教育計画1：どんなアセスメントを行うか</p> <p>第8回：個に応じた教育計画2：個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>第9回：児童生徒の認知理解：WISCによる認知の多様性のに応じた支援</p> <p>第10回：通常学級における特別支援教育：担任の役割と学級集団づくり</p> <p>第11回：教室のコミュニケーションづくり、通級による指導の現状</p> <p>第12回：障害のある子どもへの合理的配慮、自立活動の区分と内容</p> <p>第13回：小学生の発達特性と障害特性に応じた支援</p> <p>第14回：中学生の発達特性と障害特性に応じた支援</p> <p>第15回：高校生の発達特性と障害特性に応じた支援</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
河村茂雄編著「学級担任が進める特別支援教育の知識と実際」図書文化社			
参考書・参考資料等			
その都度紹介する			
学生に対する評価			
<p>1. 振り返りシートにより、授業の理解度を確認し、評価する。30%</p> <p>2. 授業中に小テストを数回行い、理解度を確認し、評価する。20%</p> <p>3. 定期考査(持ち込み不可) 50%</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業の到達目標及びテーマ カリキュラム編成の原理や近年のカリキュラム改革の動向を理解できる。 受講者自身が考える理想的なカリキュラムについて説明することができる。 カリキュラム・マネジメントの必要性を説明することができる。			
授業の概要 教育課程が有する役割、機能、意義を考察する。教育課程編成の基本原理と学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を検討する。教科や領域、学年をまたいだ広い観点からのカリキュラム理解を促し、学校教育課程全体のマネジメントの意義、カリキュラム・マネジメントの必要性を探究する。近年のカリキュラム改革の動向を考察するとともに、自身が考える理想的なカリキュラムを考える機会を持つ。			
授業計画 第1回：学校づくりとカリキュラム 第2回：内的選択の基準 第3回：カリキュラム編成の原理 第4回：子どもの発達とカリキュラム 第5回：教科書 第6回：学校のカリキュラム 第7回：カリキュラム・マネジメントとは何か 第8回：カリキュラムの類型 第9回：教科のカリキュラム 第10回：教科外カリキュラム 第11回：近年のカリキュラム改革の動向 第12回：日本の教育課程改革の歴史 第13回：学習指導要領の変遷 第14回：諸外国のカリキュラム 第15回：教育課程の評価、カリキュラム・マネジメントの課題 定期試験			
テキスト 田中耕治編『よくわかる教育課程』 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 広岡義之編『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房 中学校学習指導要領解説 総則編、高等学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省			
学生に対する評価 受講態度・自筆ノートの提出30% 定期試験70% (教科書と自筆ノートのみ持ち込み可。コピーは認められない)			

授業科目名： 道徳教育の 理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>「知識・技能」</p> <p>(1) 学習指導要領の道徳の目標と内容の要点を説明できる。</p> <p>(2) 主な道徳教育の理論を理解し、その特徴を説明できる。</p> <p>(3) 学習指導案の細目や指導過程を自分の言葉で説明できる。</p> <p>「思考力、判断力、表現力」</p> <p>(1) 道徳に関する新聞記事などの資料を見て、道徳教材としての有効性を自ら考え、判断できる。</p> <p>(2) 道徳の諸問題の所在や解決策を自分自身で考え、説明できる。</p> <p>(3) 道徳教材を言葉、掲示物、ワークシートなどで表現できる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 授業に主体的に取り組むことができる。</p> <p>(2) 道徳の理論が多様であることを理解し、多面的・多角的な見方ができる。</p> <p>(3) グループワークで、他のメンバーと協働して模擬授業を実施できる。</p>			
授業の概要			
<p>道徳とは何かを理解し、特別の教科である道徳の目標と内容、指導計画等を理解する。教材研究に基づいた学習指導案の意義や作成の仕方を理解し、実践的な指導能力を身に付けるため、模擬授業等を実施する。主体的・対話的で深い学びを学修する。模擬授業を実施する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：道徳とは何かを考え、小・中学校学習指導要領の道徳科の目標・内容、高等学校学習指導要領の教育活動全体を通じた道徳教育の在り方を概観し、理解する。</p> <p>第2回：道徳教育の歴史をたどり、道徳の教科化に至る経緯を学習する。</p> <p>第3回：モラル・ジレンマ、価値の明確化、人格教育など、多様な道徳教育の考え方を比較する。</p> <p>第4回：道徳のジレンマ授業批判を考える。</p> <p>第5回：小・中・高校における道徳の指導法を学修する。</p> <p>第6回：ディベートによる道徳教育を理解する。</p> <p>第7回：道徳学習指導案の項目を理解し、作成の仕方を学習する。道徳科で使用する教材を選択し、授業のねらいを具体化し、指導過程を組み立てる。グループワークやディスカッションを行う。</p> <p>第8回：板書計画、配布資料、ワークシート、理解度テストなどを作成する。</p> <p>第9回：道徳科の評価の在り方を理解し、多様な評価方法を学習する。</p> <p>第10回：道徳の学習指導案をグループ又は個人で実際に作成する。</p> <p>第11回：道徳の模擬授業を実施し、プレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>第12回：道徳の模擬授業を実施し、他のグループの授業を分析する。</p> <p>第13回：道徳の模擬授業を実施し、他のグループの模擬授業の良かった点、改善点を指摘する。</p> <p>第14回：模擬授業を実施し、振り返りを行い、授業改善の過程を学ぶ。</p> <p>第15回：まとめ</p>			
定期試験			
テキスト			
諸富祥彦、『考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ10』明治図書			
参考書・参考資料等			
『中学校学習指導要領』文部科学省、平成29年3月			
『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』文部科学省、平成29年3月			
学生に対する評価			
<p>基準 ①学習指導要領の目標と内容及び主な道徳教育の理論を理解したうえで、自分の言葉で説明でき、</p> <p>②道徳教材となる問題を自ら考え判断し、学習指導案を作成し、模擬授業ができ、</p> <p>③主体的に授業に参加できれば、合格。</p>			
方法 定期試験またはレポート(50%)、模擬授業やグループワークでの協働などの貢献度(50%)			

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 利明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
授業の到達目標及びテーマ 特別活動の指導の実際を、総合的な学習の時間と関連づけて、以下の観点に基づいて理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 双方の目標・内容の類似性と差異の観点。 (2) 各教科の位置づけとの関係性の観点。 (3) とともに教育活動全体で実施することの意義。 (4) 取り組みの評価の在り方の類似性と差異の観点。 			
授業の概要 「総合的な学習の時間」と「特別活動」は、言わば近接領域である。従って、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」という、特別活動の3大領域のまとめの段階で、「総合的な学習の時間」との関係性を考察しなければならない。また、この2つの領域は、学校教育活動の中でも、とりわけアクティブ性が要求される領域である。だから、毎回の授業においては、事例研究をふんだんに取り入れ、あるべき姿を明確にして、考察の対象としていきたい。			
授業計画 第1回：特別活動とは何か。学習指導要領概説。総合的な学習の時間と関連づけて。 第2回：学級活動の目標と内容 第3回：学級活動の指導計画 第4回：学級活動の具体例 第5回：生徒会活動の目標と内容および具体例 第6回：学校行事の総括 第7回：儀式的行事とは何か 第8回：文化的行事とは何か 第9回：集団宿泊的行事とは何か 第10回：健康安全・体育的行事とは何か 第11回：勤労生産・奉仕的行事とは何か 第12回：総合的な学習の時間の意義と教育課程の留意点 第13回：総合的な学習の時間の年間指導計画および単元計画 第14回：総合的な学習の時間の具体的手立ておよび評価 第15回：ユニークな特別活動・総合的学習 定期試験			
テキスト 原清治他『特別活動』 ミネルヴァ書房 原田恵理子、森山賢一『最新総合的な学習(探究)の時間』 大学教育出版			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 「特別活動編」「総合的な学習の時間編」 高等学校学習指導要領解説 「特別活動編」「総合的な学習の時間編」			
学生に対する評価 授業での討論への参加度（50%）、課題レポート（50%）で評価する。			

授業科目名： 教育方法論（ICT活用の 理論と方法を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤利明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業の到達目標及びテーマ 教育方法の基礎理論と実践を理解できる。これまでの教育方法の理論を知った上で、受講者自身が指導技術を身につけ、模擬授業実践ができる。その際、ICTを活用した学習指導や校務の在り方を理解し、情報モラルを含む情報活用能力を育成する指導法に関する知識や技能を身につける。学校における校務支援など、ICTを活用した校務の情報化の取り組みを考える。			
授業の概要 生徒の望ましい資質・能力を身に着けさせるために、主体的・対話的で深い学びを理解させる。学習指導の原理を理解し、学習指導の段階とその批判を検討する。一斉授業と個に応じた指導のそれぞれの長所と短所を考察する。学習指導案の必要性を理解し、実際に作成する。指導案に基づき、ICTを活用した模擬授業を実施する。ICTの活用については、その意義を理解し、各教科等の学習指導の場面で活用する。模擬授業を通して、教員に必要な指導技術を身につけ、学習評価の在り方を理解する。学校において、ICTを活用した校務支援を考える。			
授業計画 第1回：教育方法の基礎理論、学習指導の原理 第2回：学習指導の段階とその評価 第3回：問題解決学習、系統学習、発見学習などの長所と短所 第4回：一斉、個別、協働(グループ)学習の長所と短所 第5回：講義法、問答法、討議法などの長所と短所 第6回：学習指導案の必要性和細目、学習評価 第7回：学習指導案の作成 第8回：板書計画、発問、ワークシート、ICTの活用場面を考える 第9回：ICT活用の意義と理論、中・高校学習指導要領におけるICTに関する記述、校務の情報化 第10回：ICTを活用した授業実践と校務支援、主体的・対話的で深い学びの実現と授業改善 第11回：遠隔・オンライン教育の意義と使用法、統合型校務支援システムの構築 第12回：情報モラルの在り方、SNSなどの使用法 第13回：生徒にICTを育成するための指導法、校務支援システムの使用法 第14回：ICTを活用した模擬授業の実践 第15回：ICTを活用した模擬授業の評価、グループ・ディスカッションを実施し発表する 定期試験			
テキスト 文部科学省、『教育の情報化に関する手引き』（開隆堂、平成22年10月）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省			
学生に対する評価 学習指導案と模擬授業50%、学期末試験またはレポート50%			

授業科目名： 生徒・進路指導の 理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本田 真 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業の到達目標及びテーマ 生徒指導のできる教師を目標に、視野の広い思考力が活かせるようになることを目的とする。 生徒指導における様々な問題を理解し、対応できる能力を身につける。 進路指導及びキャリア教育の意義を理解し、指導できる能力を身につける。			
授業の概要 児童生徒の様々な問題行動の複雑化・多様化の傾向において、教師がいかに柔軟に対応できる資質を培い、児童生徒・保護者から信頼される指導力の向上を図ることを目標とする。 児童生徒がどのような問題でも安心して話の出来るような信頼関係を日ごろから得られる指導方法を学ぶ。 進路指導及びキャリア教育の意義を理解し、自身の言葉で説明できるようにする。			
授業計画 第1回：生徒指導の目的と意義（キャリア教育を含む） 第2回：生徒指導の基本理解（キャリア教育を含む） 第3回：子どもたちの生活実態（家庭と関係機関） 第4回：生徒指導の組織とキャリア支援体制 第5回：生徒指導の原理・原則 第6回：生徒指導をめぐる諸問題演習（1）問題行動の早期発見、発達障害に関する課題 第7回：生徒指導をめぐる諸問題演習（2）喫煙、飲酒、薬物乱用、少年非行に関する課題 第8回：生徒指導をめぐる諸問題演習（3）いじめに関する課題 第9回：生徒指導をめぐる諸問題演習（4）インターネット・携帯電話、性に関する課題 第10回：生徒指導をめぐる諸問題演習（5）自殺に関する課題、児童虐待への対応 第11回：生徒指導をめぐる諸問題演習（6）家出、不登校、中途退学に関する課題 第12回：生徒指導をめぐる諸問題演習（7）保護者・近隣への対応 第13回：進路指導やキャリア教育の意義を理解し、就職先や進学先を学習する 第14回：進路指導やキャリア教育のワークシートを体験する 第15回：学習成果の検証と授業の総括（グループ討議と発表） 定期試験			
テキスト 生徒指導提要（文部科学省編 教育図書）			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介します。			
学生に対する評価 定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題レポート（30%）			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮坂 まみ 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育における教育相談の意義を理解し、教育相談を進めるための心理学的援助の基礎知識を理解する。また、学校教育相談に関する具体的な進め方を理解する。 いじめや不登校、子どもの精神疾患や発達障害などの対応など、教育相談に関する実際の・技術的側面に関する知識と理解を身につける。			
授業の概要 学校教育の現場で教師が直面する生徒の諸問題から不登校・いじめ・発達障害・非行などを中心に話題を提供し、生徒の「こころ」と行動を理解し支援する関わり方について、検討する。また、思春期に発症しやすい神経症の問題や精神病理、教師のメンタルヘルスについても基礎的な精神医学的知識を習得し、学校における対応について考える。生徒理解を深め、援助するための実践的な方法を、臨床心理学的な視点を踏まえて学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・教育相談とは 第2回：学校教育における教育相談 第3回：児童及び生徒のアセスメント 第4回：不登校・いじめ 第5回：特別支援教育・発達障害 第6回：非行問題・ネグレクト 第7回：保護者への対応 第8回：カウンセリングの基礎的知識 第9回：カウンセリング演習 ①コミュニケーション 第10回：カウンセリング演習 ②傾聴、共感のワーク 第11回：カウンセリング演習 ③芸術・表現療法 第12回：スクールカウンセラーの仕事、学校内および他機関との連携の重要性 第13回：教師のメンタルヘルス 第14回：学校危機介入 第15回：まとめの課題 定期試験			
テキスト よくわかる教育相談（春日井敏之・伊藤美奈子編著 ミネルヴァ書房，2011）			
参考書・参考資料等 講義内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 持ち込み不可の定期試験（60％）、小テストまたはリアクションペーパー（20％）、ワークなどの参加態度（20％）により評価する。			

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名：石山智典、伊藤利明
科目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) ○ 学校現場の意見聴取(※2) ○
受講者数	10人	
教員の連携・協力体制	<p>本学では教職実践演習を「教育の基礎的理解に関する科目等」を担当する教職専任教員を中心とした演習授業として開設し、各教員が相互に連携・協力を図りながら授業および個別的な補完指導を実施・運営する。</p> <p>本演習の実施・運営の中心となる専任教員の構成には教員勤務経験者が含まれている。学校現場および学校現場に通じた教員との連携は、教員勤務経験のある本学教員を中心に各教員との協力体制をつくり授業計画を実行する。とくに学校現場での補足的な実地研修、ICTを活用した模擬授業の実践演習、四年間の教職課程の総確認となる本演習のまとめでは、各担当の専任教員が共同参画し、学生の振り返りや討議の活性化を図る。</p>	
授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職と教科に関する科目の履修状況について履修カルテを確認し、教師として必要な知識と技能、資質能力を修得したことを授業内および授業外指導にて振り返り、補充する。 2. 教育に関する現代的課題について、具体的な場面分析・ロールプレイング、討議、ICTを活用した模擬授業等を行なうことで、「学習指導」「生徒指導」「学校経営」に関する理解を深め、問題解決力や実践力の基礎をいっそう確かなものとする。 3. 学校現場での補足的な実地研修（フィールドワーク）や教員勤務経験者の授業から、教育現場に携わる教師としての実践感覚を高める。 	
授業の概要	<p>本授業は、中学校・高等学校の教員免許取得者を対象に「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修をとおして得られたこれまでの知見と課題を確認しながら、教職と教科に関する教師として必要な知識と技能、資質能力習得の補充的学習を行なうものである。そのために、本授業では履修カルテを確認し、グループ討議や場面分析、役割演技、模擬授業の実践を中心とした演習をベースに、学校現場の見学・調査、教員経験者を講師とした講義などの様々な方法を取り入れながら、各受講者の学修内容に関する補充的な指導と問題の把握、および学習指導・生徒指導・学校経営をめぐる様々な今日的課題に対応するためのスキルアップを図り、教育現場に立つ教師として必要な知識技能と資質能力を総点検する。</p>	
授業計画	<p>第1回 イントロダクション：教師としての自分をみつめ、振り返る、履修カルテの記入漏れがないかを確認する</p> <p>第2回 教職の意義、教師の役割について、履修カルテを参照しながらグループ討議を通して考える</p> <p>第3回 現代社会と学校教育の課題</p> <p>第4回 学校現場の視点から考える①：教師として必要な資質能力とは何か？</p> <p>第5回 学校現場の視点から考える②：保護者と地域連携</p> <p>第6回 学校経営についての場面分析・ロールプレイング</p> <p>第7回 実地研修①：学校現場の見学・調査</p> <p>第8回 実地研修②：学校現場の見学・調査のまとめ</p> <p>第9回 学校現場の視点から考える③：子どもの成長と発達</p> <p>第10回 生徒理解についての場面分析・ロールプレイング</p> <p>第11回 ティーチング・フィロソフィーを構想する</p> <p>第12回 学校現場の視点から考える④：教科の指導力</p> <p>第13回 ICTを活用した模擬授業の実践演習（中学校）</p> <p>第14回 ICTを活用した模擬授業の実践演習（高等学校）</p>	

<p>第15回 まとめ：知識技能と資質能力の確認 最終試験</p>
<p>テキスト テキストは使用しない。 (ただし、履修した教職と教科に関する履修科目の内容の補完指導も行うので、これまでに指定され使用した教科書や学習指導要領などのテキストの参照を適宜指示する場合がある。)</p>
<p>参考書・参考資料等 参考書・資料等については、必要に応じて各授業のなかで指定する。</p>
<p>学生に対する評価 定期試験は実施しないが、各回のリアクションペーパー等を含む授業への参加発表の状況（30%）、知識技能の修得を確認する小レポート（30%）、および最終試験として定期試験期間中に報告書の提出（40%）を課し、それらの成績を総合して評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。